

【現状チェック】「誰に書いているか」が消えていないか確認する

「誰か」に届かない言葉

読んでほしい投稿が流れる。手応えなく終わる。

現在の無反応状態

- 整えた投稿ほど静かで、役立つはずの内容が止まっている
- 反応の薄さで自信が削られ、広く届けたい気持ちだけが空回りする
- 丁寧に書いているはずなのに、読まれている実感が持てない
- 投稿が「会話」ではなく、一方的な「説明」になっている

— 診断：言葉の「宛先」が不在になっています —

「全員」に向けた瞬間に、 「私向け」の感触が消える。

- 一人の顔が見えていないため、言葉の輪郭がぼやけている
- 丁寧さが「無難」に変わり、読者の状況が想像されていない
- 誰にでも当てはまる正解を語り、温度が下がっている

原因の核心

宛先不在による温度低下 / 会話の欠落

「何を言うか」が優先され、相手との接続が切れている状態です。

「上手さ」や「量」では埋まらない溝

「広く」書くほど、 届かなくなる。

× 捨てていい誤解

文章力や構成が足りない
写真や見出しが弱い
役立つ情報が足りない

○ 直視すべき事実

反応不足は才能不足ではない
やさしい表現だけでは不十分
広げるほど言葉は薄まる

「一人が頷く言葉」こそが、世界に広がります

構成を整える前に、まずは「たった一人の悩み」に焦点を当てましょう。

一人の「顔」から書き始める

過去の自分、あるいは直近で話した相手
その人が今いる「場面」と「悩み」を具体化
その人に直接話す「口調」と言葉を選ぶ

【宛先の一点集中 > 全体への配慮】

「渡したい一文」を一人のためだけに研ぎ澄ませます。

宛先が明確になれば、言葉の輪郭は自然に立ち上がります

「保存」から「対話」への転換

- 流される投稿 → 「これ私だ」と手が止まる
- 情報への保存 → 感情への反応（コメント・DM）
- 薄い手応え → 具体的な悩みや相談の発生
- 説明調の文章 → 投稿の温度が戻り、人間味が宿る

「一人」を思い浮かべてから書く

1. 特定の一人（過去の自分でも可）を思い浮かべる
2. その人の今の状況を「一行」で書く（冒頭に置く）
3. 解決したい悩みを一つだけに絞る
4. 渡したい言葉を一文だけ決める
5. 全体向けの「やさしい」表現をすべて削る
6. そのまま、相手に語りかけるように投稿する

宛先の「ぼやけ」を修正する

点検項目

- ✓ 投稿前に、宛先の「顔」が見えているか？
- ✓ 説明調になり、会話が消えていないか？
- ✓ 「私向け感」を削ぎ落としていないか？

得られる効果

読者像の具体化による共鳴獲得
反応ゼロ状態の即時見直し
説明調の停止と対話の再開
書けない日の思考の再起動

毎回この順で点検し、言葉を「一人の心」へ繋ぎ直してください。

一人のための言葉が、一番遠くまで届く

「一人」を、決める。

過去投稿を一つ選び、宛先を固定して書き直す
三日間、一人に向けた発信を続けてみる

迷ったら再点検。宛先が、すべての起点。